

特別展「めでた^う尽くし」・よろこびの ころとかたち・
平成21年2月7日(土)～3月22日(日)



錦絵「当世流行見立」 国立歴史民俗博物館

日本人は“幸せを得る”ために、また“無事に一生を過ごす”ために、多くの祈りを込めた生活を送ってきました。その中には、幸せをもたらすと信じられた吉祥文様や縁起物を身近に置いて力を得ようという考え方もあったようです。例えば、龍・鳳凰・鶴亀・松竹梅などの文様は、平安や隆盛をもたらすと信じられ、多くの美術品のモチーフになっているばかりでなく、庶民の生活と密着した品々にも描かれています。また、人生の節目である通過儀礼(人生儀礼)の場においても、それぞれに関連した文様や縁起物などを用いて無事を祈り、幸せを願ってきた様子うかがわれます。それは、生業において豊作や大漁を祈り、祝う場面でも同様です。

今回の展示では、日本人にとって吉祥のしるしとされた代表的な文様や縁起物を紹介するとともに、無事を祈り、幸せを願った場面や無事にその日を迎えられた幸せ、事を成したときのよろこびやうれしさを表現した祝いの場面をとりあげ、吉祥文様や縁起物、祝い事に込められた意味を考えていきたいと思えます。

人々が幸せを願い、よろこびのころをかたちで表現し、明日への活力を見いだそうとした日本人的な考え方を再認識していただければ幸いです。以下、主な内容を紹介いたします。

1 めでたきことあれ・・・吉祥をあらわすモチーフ・・・

私たちの身の回りでは、龍・鳳凰・鶴亀・松竹梅などさまざまな縁起のよい絵柄を見ることができます。その絵柄は華麗で格調高い美術品ばかりでなく、日用品として使われている食器・衣服・化粧道具などにも描かれてきました。このような絵柄を総じて吉祥文様といいます。吉祥とは、吉事が生じる兆しという意味があり、人々は素晴らしいことや幸せなことが訪れるようにと祈りを込めてさまざまな吉祥文様を描いてきました。

ここでは、吉祥をあらわす日本人に最もよく知られた象徴的存在の「宇治・平等院鳳凰堂の鳳凰像(2代目)」や日光東照宮大造替の上棟式に用いられた国宝「双龍獅子蒔絵上棟式用具箱」、紀州徳川家伝来の雅楽器「楽琵琶(白鳳)」「楽太鼓(獅子図)」、室町時代から江戸時代に制作された鎌倉彫の「獅子形香合」「獅子牡丹文卓」などを展示し、使うモノ・着るモノ・身につけるモノに描かれた吉祥文様にはそれぞれどういう意味があるのか、代表的な吉祥文様を紹介し、そこに込められている意味や人々の願いについて考えます。

2 めでたさの表現…生業の祝いを表現する…

何かよいことがあると、人々は祝いのための特別な催しや儀式を整えてきました。「祝う」ということは、日常生活の流れのなかで精神の昂揚をもたらし、新たな活力を呼び起こす機会となります。また、祝い事をすることによって人間関係を和やかにしたり、自分たちの生活によるこびや潤いを与えることにもなります。

ここでは、自分の願いや理想が叶えられる、自分に福をもたらしてくれるという切なる思いを託した代表的な縁起物「福助人形」「招き猫」「だるま」などを展示します。また、無事にその日を迎えられたことの幸せや事を成したときのよろこびなど、生業の歴史の中にみられる祝い事の場面（農業では豊作、漁業では豊漁、商業では商売繁盛）を描いた「四季耕作図屏風」「奉納絵馬 布川河岸図」「大日本物産図会」などを展示し、人々がおこなってきた祝いの時間について探っていきます。

3 一生に一度のめでた儀式…通過儀礼(人生儀礼)にみる 祝いのこころとかたち…

人々は生まれて成長していく人生の節目節目において、それぞれの場面に応じた祝賀を催し、その日を迎えたことをよろこび、これからの無事を祈る祝いと祝いの儀式をおこなってきました。

ここでは、県内を中心に、神社や寺院、各家ごとにおこなわれる代表的な通過儀礼（初宮参り・七五三・十三詣り・婚礼・年祝い）を紹介するとともに、子孫繁栄・無病息災・良縁成就・延命長寿にみられる嘉と慶の兆しを文様にあらわした「松竹梅鶴亀金銀珊瑚造びらびら簪」「宝尽雲文繫模様振袖」一橋徳川家三代当主、徳川斉敦が描いた「梅亀図」「福祿寿図」「竹鶴図」や縁起物の「犬張り子」「結納飾り」などを展示し、人生の節目に込められた人々の思いや祝うことの意味について考えていきます。



「梅亀図」「福祿寿図」「竹鶴図」 本館（一橋徳川家記念室）

講演会

日時：平成21年2月22日(日)午後1時30分より

講師：山本三千子氏(室礼三千主宰)

演題：「よろこびの ころとかたち」

会場：茨城県立歴史館講堂

祝福芸能鑑賞会 (水戸大神楽)

日時：平成21年2月15日(日)

午前の部 11時より 午後の部 1時30分より

出演：水戸大神楽宗家 柳貴家正楽一門

会場：茨城県立歴史館 講堂

定員：先着200名 要入館券

祝福芸能鑑賞会 (三河万歳)

日時：平成21年3月1日(日)

午前の部 11時より 午後の部 1時30分より

出演：三河万歳師 若杉多紋氏・三河万歳保存会

会場：茨城県立歴史館講堂

定員：先着200名 要入館券

めでたミニ講座 展示解説

日時：平成21年2月11日(建国記念の日)

3月 7日(土)

3月15日(日)

・「吉祥文様と縁起物」午前の部 11時より 約30分

・「めでたきことを祝う」午後の部 1時30分より 約30分

会場：茨城県立歴史館講堂及び展示室 要入館券

担当：本館学芸部首席研究員 飯塚 信久